

文学作品の 舞台を訪ねる

山陰地方出身である私が、初めて北海道にふれたのは高校生の時であった。渡辺淳一の『阿寒に果つ』という作品を読んだことである。その後、原田康子の『挽歌』、三浦綾子の『氷点』を読んだことでもなく北海道に親近感を持つようになったと記憶している。今回初めて北海道で勤務することになったことをきっかけに、これらの作品の舞台を訪れてみた。

●北海道支社 観光推進役 大谷隆司



1



3



2



5



4

1 白樺に囲まれた塩狩峠記念館 2 北海道ゆかりの作家に関する資料など、約26万点を所蔵する北海道立文学館 3 直木賞作家・渡辺淳一の作品とその人生を紹介する渡辺淳一文学館 4 三浦綾子の文学遺産を後世に伝える三浦綾子記念文学館 5 500品種を超える草花が咲き誇る「大雪 森のガーデン」

北海道立文学館
〈北海道文学を総覧〉
MAP 57 C-1

まず最初に北海道立文学館を訪ねた。札幌市の中心部、市民の憩いの場となっている中島公園にあり、アイヌ文化から現代文学まで北海道文学の歴史が紹介されているとともに、北海道ゆかりの作家にも出会うことができる。改めて北海道文学の奥の深さを感じることができた。

渡辺淳一文学館
〈作者の素顔に出会う〉
MAP 57 C-1

もつとも訪れたかった渡辺淳一文学館。北海道立文学館の近くに位置し、建物は凛として趣があるが閑静な住宅街に溶け込んでいるかのような佇まいである。中はまさに渡辺文学の集大成であった。高校生や医学生だった時の成績表を始め作者の素顔に触れることができた。また、『阿寒に果つ』の主人公・時任純子のモデルである女性と作者との写真も展示しており、非常に興味を引かれ興奮を覚えた。

三浦綾子記念文学館
〈夫婦の絆〉
MAP 53 B-4

札幌市から離れ、三浦綾子記念文学館に向かう。道北の旭川にあり、『氷点』の舞台となつている外国樹種見本林に囲まれたところにそれはあった。館内では

ボランティアの案内人の方が三浦文学の原点からその人生をわかりやすく説明してくれる。印象に残ったのは三浦ご夫婦の愛の形である。作者の体調がすぐれなかったこともあり、ご主人である三浦光世さんの存在が三浦文学には切っても切れないとても大切な存在であったことが初めてわかった。そのご主人の三浦光世さんが来館されていた。時々お出でになるとのことである。

塩狩峠記念館

～原点の家～

MAP 53 B-4

三浦綾子記念文学館から道央道に向かい旭川鷹栖ICから2 ICほど北に行つた和寒ICの近くに塩狩峠がある。三浦綾子の作品『塩狩峠』の舞台になったところである。ここに作者の旧宅が移築され塩狩峠記念館となっている。作者の原点ともいべき旧宅であり、今でもファンの来館が後を絶たないそうだ。また、作品のモデルとなった殉職された長野政雄の碑もそこにあつた。

旭川近辺には、新たに北海道ガーデン街道に仲間入りした「大雪 森のガーデン」、アイヌ語で「カムイミンタラ（神々の遊ぶ庭）」と呼ばれる大雪山、その麓に層雲峡があり、雄大かつ神秘的な風景を楽しむことができる。立ち寄ってみてはいかがだろうか。



硫黄山を源とする源泉が湧き出す川湯温泉。湯の川にある足湯で昔ながらの温泉町の雰囲気を楽しもう



阿寒湖畔に「ボッケの散策路」がある。多くの人で賑わう湖畔を離れ森の中に入れば、森の濃密な香りに癒される



ロープウェイで五合目まで登れば大雪山層雲峡の雄大な風景が楽しめる

阿寒湖

～果てた地～

MAP 55 C-2

道東に位置する阿寒湖、釧北峠。『阿寒に果つ』の冒頭に出てくるまさに主人公が果てた地である。湖畔に立つとなんとなく物悲しい気持ちにさせられた。こは、まりもで有名な観光地でもあり、遊覧船や今でも活発な火山活動を実感できるボッケ（アイヌ語で「煮え立つ」という意味）を見ることが出来る。

川湯温泉

～ひっそりと佇む文学碑～

MAP 55 C-1

阿寒湖から少し北東に行つた屈斜路湖の近くに川湯温泉がある。原田康子の『挽歌』に登場するK温泉と称されているところである。温泉街の中心部に湯の川が流れており足湯も楽しむことができる。その湯の川園地にひっそりと『挽歌』の文学碑が建っていた。作品に出てくる主人公の兵藤恰子が桂木と宿泊したというホテルとはどれだったんだろうかと思いを巡らせながら足湯に浸かった。

釧路

～霧の街～

MAP 55 C-2

最後に『挽歌』の舞台となった釧路を訪れた。訪れた時、街は霧に包まれていた。夏の時期にはよくあることだと聞いた。



北海道の東南部に位置する釧路。眼前には海、背後には広大な釧路湿原が広がるこの地は、夏でも涼しく、避暑地としても人気が高い

た。ここでは、原田康子の文学碑がある幣舞公園を訪れてみた。作品に描かれている市街地の風景が見渡せる場所であり、作品に溶け込むことができる。また、こは最近直木賞を受賞した桜木紫乃の作品の舞台でもある。

今回巡った場所は北海道出身の3人の作家にゆかりのある地であるが、ほかに北海道にゆかりのある作家は大勢いる。文学館も道内に多々あるので訪れてみてはいかがだろうか。北海道には、景色やグルメ以外にもあなたの新たな発見があるかもしれない。